

Increased prevalence of atrial fibrillation after the Great East Japan Earthquake: Results
from the Fukushima Health Management Survey
東日本大震災後の心房細動有病率の増加：福島県「県民健康調査」による結果

鈴木均

福島県立医科大学医学部循環器・血液内科学講座

著者

鈴木均、大平哲也、竹石恭知、細矢光亮、安村誠司、佐藤博亮、川崎幸彦、高橋敦史、坂井晃、大津留晶、小橋元、小笹晃太郎、山下俊一、神谷研二、阿部正文

背景

自然災害後、心筋梗塞や肺血栓塞栓症など様々な心血管イベントの増加が報告されています。本研究では、心房細動(AF)の有病率が東日本大震災後に福島県の避難区域の居住者において増加したかどうかを検討しました。

方法および結果

政府が指定した避難区域を含む12の地域で2008年から2010年の間に12誘導心電図を含む健診を受けた40～90歳の26,163人(男性11,628人、女性14,535人)のうち、2011年6月から2013年3月の間(震災後)に追跡健診を受けた12,410人(男性5,704人、女性6,706人、追跡率47%、平均追跡期間1.4年)を対象としました。

AFの有病率は、震災前に比べて震災後に増加していました(震災前：1.9%、震災後：2.4%、 $P < 0.001$)。震災後のAF新規発症率は1000人・年あたり4.5人で、多量飲酒(アルコール $\geq 44\text{g}/\text{日}$)および肥満が各々3.07(1.55–6.08)および1.87(1.19–2.94)の危険率(多変量調整)でAF発症と関連していました。

結果

東日本大震災後、AF有病率は福島県の避難区域の居住者において増加し、AF発症の有意な危険因子は多量飲酒と肥満でした。

掲載情報

「International Journal of Cardiology」(2015)

Suzuki H, Ohira T, Takeishi Y, Hosoya M, Yasumura S, Satoh H, Kawasaki Y, Takahashi A, Sakai A, Ohtsuru A, Kobashi G, Ozasa K, Yamashita S, Kamiya K, Abe M.

International Journal of Cardiology. 2015 Jul 2; 198:102-105.